

南島原市文化財調査報告書 第29集

# 大崎鼻遺跡

—大崎鼻自然公園整備事業に伴う発掘調査—

2022

長崎県南島原市教育委員会

## 発刊にあたって

本書は、長崎県南島原市布津町大崎に所在する大崎鼻遺跡の発掘調査報告書です。大崎鼻遺跡は、島原半島を東西に横切る雲仙地溝帯のうち南縁断層帯を構成する布津断層の急崖の上に立地しています。遺跡からは有明海の深く湾入した入江越しに普賢岳や平成新山、眉山といった雲仙の山々を望むことができ、たいへん風光明媚なところです。

今回の発掘調査は、旧布津町が事業主体である大崎鼻自然公園整備事業に伴って野外ステージや展望台などの建設予定地を対象として実施したもので、発掘調査では、縄文時代早期の遺物群と縄文時代後・晩期の遺物群、主に二つの時期のものを検出いたしました。

発掘調査によって得られたこれらの埋蔵文化財は、地域の貴重な歴史的財産であり、私たちが責任をもって後世に伝えていかなければなりません。研究や教育など多方面において活用されるよう、今後ともより多くの機会を設けていく所存です。

末筆になりましたが、発掘調査を実施するにあたりご協力とご理解を賜りました地元にお住いの皆様、工事関係の方々、事業部局の皆様、発掘調査と整理調査に従事いただきました作業員の方々、そのほか関係各位に心より感謝申し上げ、発刊のあいさつといたします。

令和4年3月31日

南島原市教育委員会

教育長 松本 弘明

## 例　　言

- 1 本書は、大崎鼻遺跡（長崎県南島原市布津町大崎所在）の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、布津町（現南島原市）が事業主体である大崎鼻自然公園整備事業に伴って実施した。
- 3 現地調査は、布津町教育委員会（現南島原市教育委員会）が主体となって実施した。また、本書作成に係わる整理調査は、長崎県南島原市教育委員会が主体となって実施した。調査の体制・担当は、以下のとおりである。

### 調査主体

南島原市教育委員会 教育長	永田 良二（～令和3年8月）
	松本 弘明（令和3年8月～）
教育次長	栗田 一政
文化財課長	岡野 博明
文化財課文化財班長	梶原 知治

### 調査担当

現地調査	
布津町教育委員会	生涯学習係
整理調査	
南島原市教育委員会	文化財課文化財班

- 4 現地調査における遺構配置図、個別遺構実測図、土層図の作成、写真撮影は、伊藤が行った。
- 5 遺物の実測、製図は、㈱埋蔵文化財サポートシステム長崎支店に委託した。遺構図及び土層図の製図、本書掲載の遺物の写真撮影は、本多が行った。また、整理調査及び本書作成にあたって、細波泉、下田金衛、飛永弘恵、横田香織の協力を得た。
- 6 本書に関する遺物、図面、写真等は、南島原市深江埋蔵文化財整理室に保管している。
- 7 本書の執筆・編集は、本多による。

## 本文目次

第Ⅰ章 はじめに	1
(1) 環境	1
(2) 調査の概要	1
第Ⅱ章 調査の成果	2
(1) 土層と遺構	2
(2) 出土遺物	6

## 挿図目次

第1図 大崎鼻遺跡位置図 (S=1/200,000)	1
第2図 調査区配置図 (S=1/2,500)	3
第3図 土層実測図 (S=1/60)	4
第4図 A区遺構配置図 (S=1/200)	5
第5図 B区遺構配置図 (S=1/200)	5
第6図 B区集石実測図 (S=1/40)	5
第7図 出土土器① (S=1/3)	6
第8図 出土土器② (S=1/3)	7
第9図 出土土器③ (S=1/3)	8
第10図 出土石器 (1・2 : S=2/3, 3・4 : S=1/2, 5~8 : S=1/3)	11

## 表目次

第1表 出土土器観察表①	9
第2表 出土土器観察表②	10
第3表 出土石器観察表	12

## 図版目次

図版 1 遺跡近景 (南から)	15
A区完掘状況 (東から)	15
B区完掘状況 (南西から)	15
図版 2 作業状況	16
B区集石検出状況	16
B区遺物検出状況	16
図版 3 A 1 区西壁土層	17
A 1 区南西壁土層	17
B 区南壁土層	17
図版 4 遺物出土状況①	18
遺物出土状況②	18
遺物出土状況③	18
図版 5 出土土器①	19
図版 6 出土土器②	20
図版 7 出土土器③	21
図版 8 出土土器④	22
図版 9 出土土器⑤	23
図版10 出土石器	24

# 第Ⅰ章 はじめに

## (1) 環境

大崎鼻遺跡は、長崎県南島原市布津町大崎に所在する。島原半島の中央には平成新山（標高1,483m）や普賢岳（標高1,359m）などの雲仙の山々がそびえて四方へと裾野を広げるが、大崎鼻遺跡は、その島原半島の東部、有明海へとびる丘陵の突端に位置しており、遺跡の北側は布津断層によって急激な崖地形となっている。

周辺遺跡としては、縄文時代早期の押型文土器が多数出土した下末宝遺跡（深江町）、縄文時代末から弥生時代初頭の遺跡で、突帯文期の「山ノ寺式土器」の標識遺跡として知られる山ノ寺櫛木遺跡（深江町）、山ノ寺櫛木遺跡と同時期の遺跡で雲仙普賢岳平成噴火鎮静後に国土交通省による防災事業に伴って大規模調査が行われた権現脇遺跡（深江町）、弥生時代中期の甕棺墓が検出された布津木場原遺跡（布津町）、横穴式石室をもつ古墳時代後期の天ヶ瀬古墳（布津町）などがある。

## (2) 調査の概要

今回の報告は、旧布津町教育委員会が調査主体となり大崎鼻自然公園整備事業に伴って実施した平成14年度の本調査の成果である。調査区は、野外ステージ及びトイレ建設地のA区（約320m<sup>2</sup>）と展望台建設地のB区（約80m<sup>2</sup>）、以上2地点である。A区については、A1区からA5区の区画を設定した。

なお、平成11年度に実施された範囲確認調査、平成12年度に実施された公園内の道路建設地の本調査については、布津町文化財調査報告書第1集『大崎鼻遺跡』（2001）によって既に報告済みである。



第1図 大崎鼻遺跡位置図 (S=1/200,000)

## 第Ⅱ章 調査の成果

### (1) 土層と遺構

#### 土層

基本となる土層は、以下のとおり整理される。

- I層 盛土。
- II層 耕作土。
- III層 黄褐色火山灰層。縄文時代早期遺物包含層。
- IV層 暗茶色土層。
- V層 バミスを含む黒色土層。
- VI層 バミスを含まない黒色土層。
- VII層 赤褐色ローム。

今回発掘調査を実施したA・B区における基本土層は、平成11・12年度の発掘調査において確認された基本土層と大きく変更を要せず、III～VI層については同一層序であると判断できる。IV層上面を目途に掘削調査を行い、III層が縄文時代早期を主体とする遺物包含層であることを追認した。全体としてIII層については、後世の耕作により大きく搅乱を受けている状況が観察された。また、A1区とA4区については、追加トレンチを設定してVII層上面までを掘削したが、III層より下位での遺構・遺物の検出には至らなかった。

なお、図面としては残されていないが、B区南壁土層の記録写真（図版3最下段）にはIII層と思われる黄褐色土層の上に薄く黒色土層が堆積している状況を確認できる。この黒色土層は、島原半島東部で「黒ボク」と呼ばれ、縄文時代晚期から中世の遺物包含層として認知されている層であると推察する。

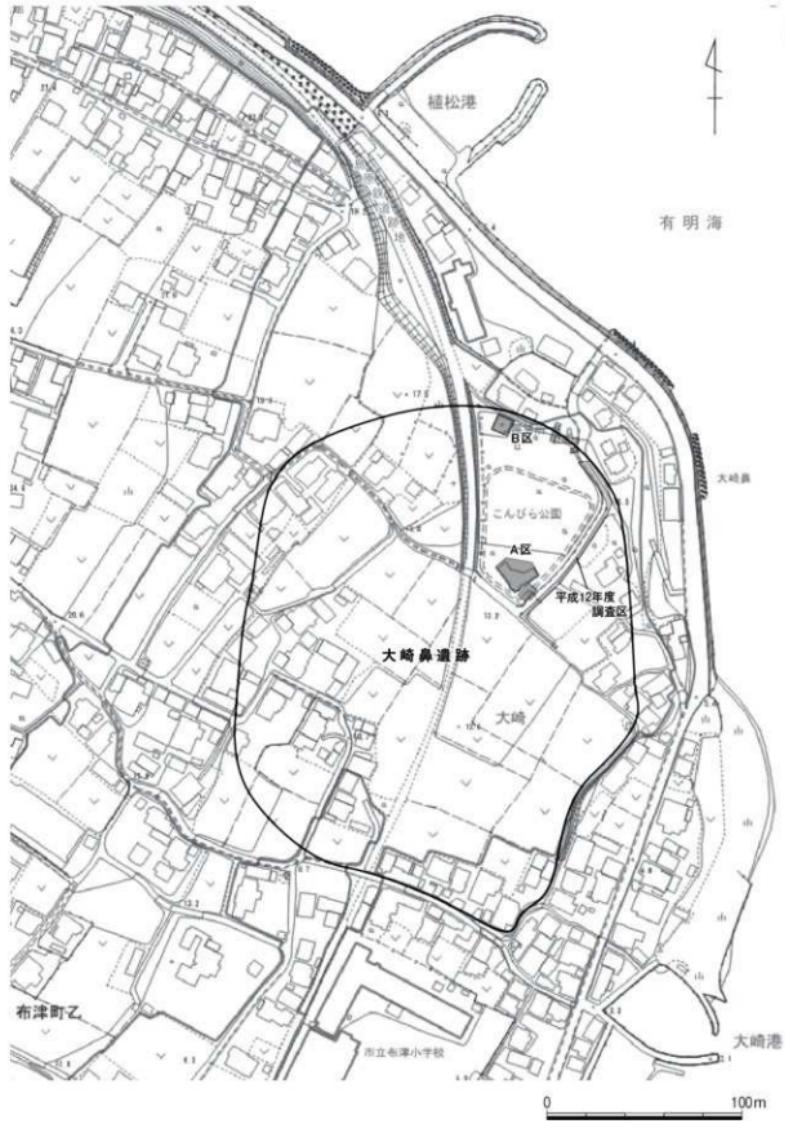
#### 遺構

A区においては、全体として遺構の検出は乏しく、A3・A4区とA5区にまたがり大きく搅乱を受けている状況を確認した。

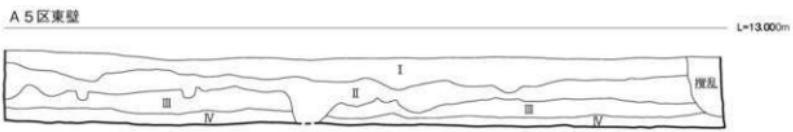
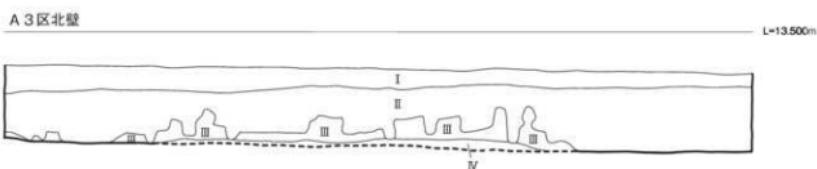
B区については、南東壁に接する位置で集石を検出した。

#### 集石

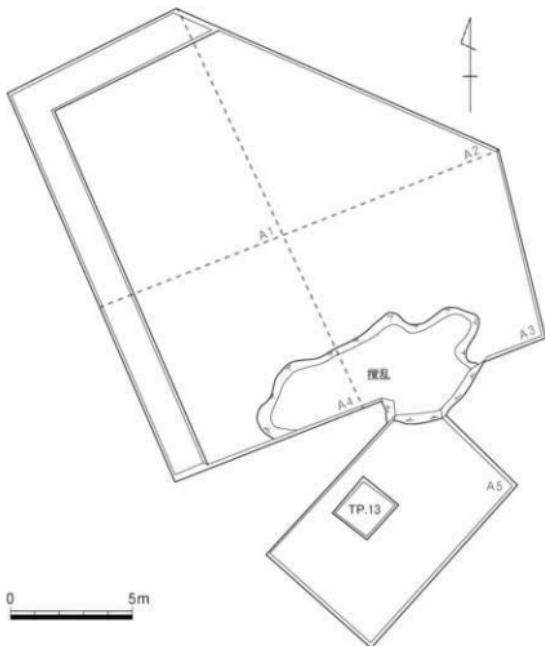
B区III層上面での検出である。在地産出のデイサイト亜円礫が南北約1.0m、東西約1.3mの範囲に集まる。ビット3基が検出されているが、集石に付随するものかは不明である。所属時期については、調査担当によって縄文時代晚期が想定されている。



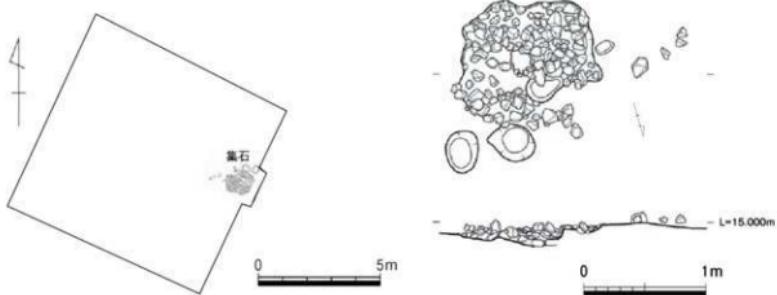
第2図 調査区配置図 (S=1/2,500)



第3図 土層実測図 (S=1/60)



第4図 A区造構配置図 (S=1/200)



第5図 B区造構配置図 (S=1/200)

第6図 B区集石実測図 (S=1/40)

## (2) 出土遺物

### 土器

1～18は縄文時代早期の円筒形条痕文土器である。

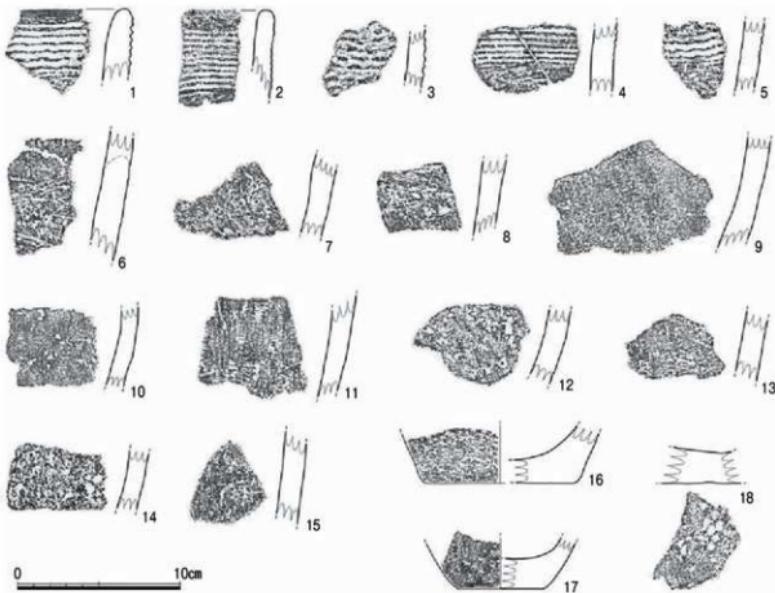
1は厚手の器壁で直立し、口唇部は丸く整える。外面には横方向に貝殻条痕文を施す。2は1に比べるとやや器壁は薄手である。直立する口縁部で、口唇部は丸く整え、外面には横方向に貝殻条痕文を施す。3はやや器面の状態が悪いが、外面には貝殻条痕文を上下に少し揺らしながら施文する。4は口縁部近くの資料で、外面には横方向の貝殻条痕文の部分と無文の部分が認められる。5も口縁部近くの資料で、貝殻条痕文の部分と無文の部分がある。貝殻条痕文は上下に緩く被打たせる。

6～15は胴部の資料である。いずれも内外面ともに丁寧なナデ調整を行っており、無文である。厚手の器壁のものが多い。

16・17は底部の資料で、いずれも内外面ともに丁寧なナデ調整が施される。16は復元底径9.2cmを測る。17は復元底径5.2cmである。18は底面に直径2～3mm程度のなんらかの圧痕が複数認められる。

19～49は縄文時代早期の押型文土器の資料である。

19～36は楕円押型文を施文する。19は直立する口縁部で、外面には横方向の楕円文が施される。口唇部にも楕円文が施される。20は比較的粒の小さい楕円文が横方向に施文される。21の施文は多方向である。22～28の楕円文は粒が小さい。28の器壁は薄手の作りである。30は粘土紐の積み上げの接合



第7図 出土土器① (S=1/3)

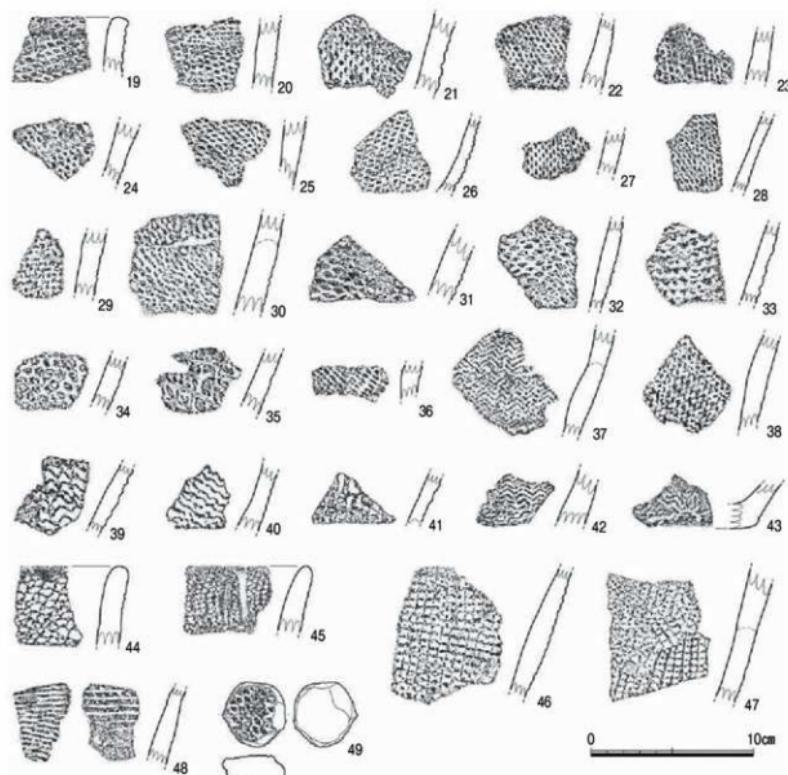
痕が明瞭である。31の梢円文は粒が比較的大きく、器壁が厚い。33・34は円文に近い。35の梢円文は大粒である。36の梢円文の粒は交互に並ぶのではなく、並列での配置である。

37～43は山形押型文を施文する。37～42は胴部の資料である。39～41は比較的大ぶりな山形文である。43は平底を呈する底部である。

44～47は格子目押型文を施文する。44は直立する口縁部で、口縁部は丸く整える。器壁は厚手である。45は若干外傾する口縁部で、口縁部は丸く整える。46・47は胴部の資料である。47は粘土紐積み上げの接合痕が明瞭である。

48は平行押型文を施文する。平行文は内外面に認められることから、口縁部近くの資料であろう。内面には平行文に一部重ねて原体条痕が施されている可能性があるが、不明瞭である。

49は梢円文の施文された土器片の縁辺を加工した円盤状土製品である。



第8図 出土土器② (S=1/3)

50~69は縄文時代後・晩期の資料である。

50~52は縄文時代後期の鉢である。50・51は外へ開く口縁部で、どちらも研磨調整が施される。50は波状口縁になるものと思われる。52は肩部の資料で、3条の沈線が認められる。

53~61は縄文時代晩期の深鉢である。53は強く外傾すると思われ、外面に斜方向の沈線が入る。

54・55の外面には貝殻条痕調整が認められる。56は強く外傾し、外面は貝殻条痕調整のち研磨調整を、内面は研磨調整を施す。57は屈曲部の資料である。58~61は粗製深鉢の胴部下半の資料である。

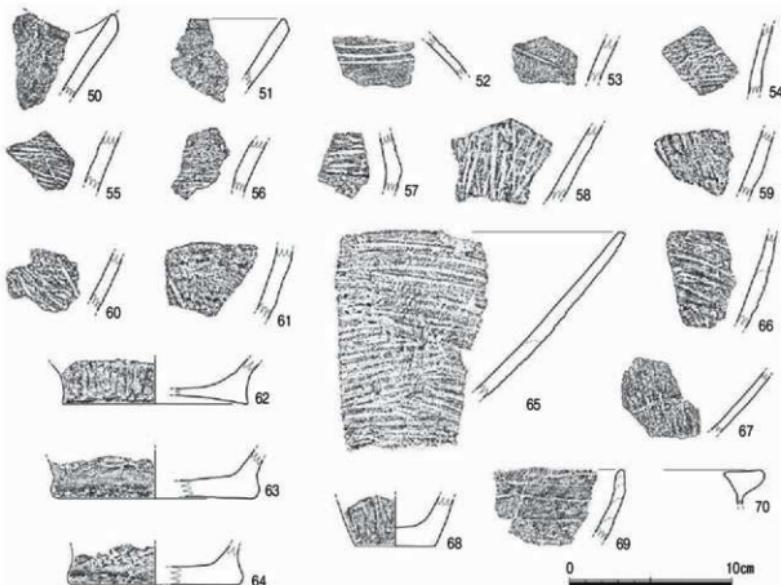
62~64は深鉢底部の資料である。62は復元底径11.4cmを測る。外面には縱方向の貝殻条痕調整が認められる。底面は擦過調整により上げ底を呈する。63・64はわずかに断面外側への張り出しをもつ。63は復元底径12.4cm、64は復元底径10.5cmを測る。

65・66はボウル状・洗面器状を呈するものと思われる粗製浅鉢である。65は大型の浅鉢で、外面には横方向の貝殻条痕調整が施され、内面は丁寧にナデ調整が行われている。口唇部は平坦に整える。

67は粗製浅鉢の胴部で、内外面ともに研磨調整が行われる。

68は復元底径5.0cmを測る小型土器の底部で、内外面ともに研磨調整が施される。69は塊形を呈する資料で、幅1.0cm前後の粘土紐積み上げの接合痕を明瞭に残す。

70は弥生時代中期前半の甕口縁部である。非常に薄手の器壁に肥厚する断面三角の口縁部がつく。



第9図 出土土器③ (S=1/3)

第1表 出土土器觀察表①

固 番号	器種	注記	区	層位	文様・調整		色調		胎土	備考
					外側	内側	外側	内側		
1 深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	其鉛条板	ナデ	灰黃褐色	黒灰	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子		
2 深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	其鉛条板	ナデ	にぶい黄褐色	黒灰	角閃石・長石・石英・白色粒子		
3 深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	其鉛条板	ナデ	橙・にぶい橙	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・白色粒子		
4 深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	其鉛条板/ナデ	ナデ	灰黃褐色	浅黃褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子		
5 深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	其鉛条板/ナデ	ナデ	浅黃褐色	浅黃褐色	角閃石・長石・石英		
6 深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	ナデ	ナデ	浅黃褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子		
7 深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	浅黃褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子		
8 深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	ナデ	ナデ	浅黃褐色	黒白	角閃石・長石・石英・白色粒子		
9 深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	ナデ	ナデ	浅黃褐色	橙	にぶい黄褐色		
10 深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	ナデ	ナデ	にぶい橙	黒灰	角閃石・長石・石英		
11 深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	ナデ	ナデ	にぶい橙	角閃石・長石・石英・白色粒子			
12 深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	ナデ	ナデ	橙	にぶい橙・黒褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子		
13 不明	OSB02B1C表	—	—	ナデ	ナデ	橙・にぶい黄褐色	灰黃褐色・黒褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子		
14 深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	ナデ	ナデ	浅黃褐色	にぶい橙・黒褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子		
15 深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	ナデ	ナデ	灰褐色・黒褐色	にぶい橙	角閃石・長石・石英・白色粒子		
16 不明	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	ナデ	ナデ	にぶい橙・橙	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子		
17 深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	ナデ	ナデ	橙	黒灰	角閃石・長石・石英		
18 深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	ナデ	ナデ	橙	にぶい橙・黒褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子		
19 深鉢	OSB02A1CⅢ層	A1K	Ⅲ層	格円押型文	ナデ	浅黃褐色	浅黃褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	口部部に格円押型文	
20 深鉢	OSB02A1CⅢ層	A1K	Ⅲ層	格円押型文	ナデ	橙・にぶい橙	浅黃褐色	角閃石・長石・石英・白色粒子		
21 深鉢	OSB02A1CⅢ層	A1K	Ⅲ層	格円押型文	ナデ	浅黃褐色	にぶい橙	角閃石・長石・石英・赤色粒子		
22 深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	格円押型文	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・白色粒子		
23 深鉢	OSB02A2-3-1&2-1層	A1K	I層	格円押型文	拂過	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英・白色粒子		
24 深鉢	OSB02A2S1Ⅱ層	A1K	Ⅱ層	格円押型文	ナデ	黒	にぶい橙	角閃石・長石・石英・白色粒子		
25 深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	格円押型文	ナデ	橙	橙	角閃石・長石・石英・赤色粒子		
26 深鉢	OSB02A1CⅡ層	A1K	Ⅱ層	格円押型文	ナデ	浅黃褐色	灰白・明褐斑	角閃石・長石・石英		
27 深鉢	OSB02A1C表	A1K	—	格円押型文	ナデ	にぶい黒	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
28 深鉢	OSB02A1C表上	A1K	表上	格円押型文	ナデ	浅黃褐色	にぶい橙	角閃石・長石・石英		
29 深鉢	OSB02A1CⅢ層	A1K	Ⅲ層	格円押型文	ナデ	にぶい橙	にぶい黒	角閃石・長石・石英・白色粒子		
30 深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	格円押型文	ナデ	明赤褐色	明赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子		
31 深鉢	OSB02A1-2-1&2-1層	A1K	—	格円押型文	ナデ	浅黃褐色	浅黃褐色	角閃石・長石・石英・白色粒子		
32 深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	格円押型文	ナデ	にぶい橙・橙	灰黃褐色・黒灰	角閃石・長石・石英		
33 深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	格円押型文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子		
34 深鉢	OSB02A1CⅢ層	A1K	Ⅲ層	格円押型文	ナデ	にぶい黄褐色	橙	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子		
35 深鉢	OSB02A2S1Ⅱ層	A1K	Ⅱ層	格円押型文	ナデ	にぶい橙	黒灰	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子		
36 深鉢	OSB02A2S1Ⅱ層	A1K	Ⅱ層	格円押型文	ナデ	橙	橙	角閃石・長石・石英・白色粒子		
37 深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	山形押型文	ナデ	橙	にぶい橙	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子		
38 深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	山形押型文	ナデ	橙	灰黃褐色	角閃石・長石・石英		
39 深鉢	OSB02A1CⅢ層	A1K	Ⅲ層	山形押型文	ナデ	灰黃褐色	黒褐色	にぶい黄褐色・黒褐色		
40 深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	山形押型文	ナデ	浅黃褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
41 深鉢	OSB02A1CⅢ層	A1K	Ⅲ層	山形押型文	ナデ	浅黃褐色	にぶい橙	角閃石・長石・石英		
42 深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	山形押型文	ナデ	橙	黒褐色	角閃石・長石・石英		
43 深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	山形押型文	ナデ	橙	にぶい橙	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子		
44 深鉢	OSB02A1C表	A1K	表	格子押型文	ナデ	浅黃褐色・にぶい黄褐色	浅黃褐色	角閃石・長石・石英・白色粒子		

7

8

第2表 出土土器観察表②

回	番号	器種	注記	区	層位	文様・調整		色調		胎土	備考		
						外側		内側					
						外側	内側	外側	内側				
8	45	深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	格子目押型文	ナデ	に赤い褐・褐灰	に赤い褐	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子			
	46	深鉢	OSB02A A2-3層	A1K	I 層	格子目押型文	ナデ	に赤い褐	褐灰・灰白	角閃石・長石・石英・白色粒子			
	47	深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	格子目押型文	ナデ	橙	明褐色・に赤い褐	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
	48	深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	平行押型文	平行押型文/ナデ	に赤い黄褐	に赤い黄褐	角閃石・長石・石英			
	49	土器内削	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	桔円目型文	ナデ	に赤い黄褐	に赤い黄褐	角閃石・長石・石英・赤色粒子	周縁を打ち欠く		
9	50	鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	研磨	研磨	に赤い褐	浅黄褐	角閃石・長石・石英・赤色粒子	波状口縁		
	51	鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	研磨	研磨	に赤い褐	浅黄褐	角閃石・長石・石英			
	52	鉢	OSB02A1CⅢ層	A1K	Ⅲ層	沈縞／ナデ	ナデ	浅黄褐	浅黄褐	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
	53	深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	沈縞／ナデ	ナデ	褐灰	に赤い褐	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
	54	深鉢	OSB02A2CⅢ層	A2K	Ⅲ層	貝殻条痕	貝殻条痕	に赤い褐	浅黄褐	角閃石・長石・石英・白色粒子			
	55	深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	貝殻条痕	一	暗赤褐色	橙	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
	56	深鉢	OSB02A1CⅢ層	A1K	Ⅲ層	研磨	研磨	に赤い赤褐色	に赤い赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
	57	深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	貝殻条痕・溝道	ナデ	黒褐色	に赤い褐	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
	58	深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	貝殻条痕	ナデ	に赤い褐	に赤い褐	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
	59	深鉢	OSB02B1C表採	B1K	—	擦過・ナデ	擦過	橙	に赤い褐	角閃石・長石・石英			
9	60	深鉢	OSB02B1C表採	B1K	—	貝殻条痕・ナデ	ナデ	に赤い黄褐	に赤い褐	角閃石・長石・石英			
	61	深鉢	OSB02B1C表採	B1K	—	ナデ	ナデ	浅黄褐	に赤い黄褐	角閃石・長石・石英			
	62	深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	貝殻条痕	ナデ	に赤い褐・橙・稍	浅黄	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
	63	深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	貝殻条痕	ナデ	に赤い褐	に赤い褐	角閃石・長石・石英			
	64	深鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	ナデ	ナデ	橙	灰黄褐	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
	65	浅鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	貝殻条痕	ナデ	灰黄褐・ に赤い褐	に赤い褐	角閃石・長石・石英			
	66	浅鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	貝殻条痕・ナデ	擦過	に赤い褐	に赤い褐	角閃石・長石・石英			
	67	浅鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	研磨	研磨	に赤い褐	浅黄褐・褐灰	角閃石・長石・石英			
	68	不明	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	研磨	ナデ・研磨	に赤い褐	褐灰・黑褐色	角閃石・長石・石英・白色粒子	粘土継接合部が明確に残る		
	69	鉢	OSB02B1CⅢ層	B1K	Ⅲ層	ナデ・指擦圧痕	ナデ	に赤い褐	橙	角閃石・長石・石英			
10	70	壳	OSB02A3CⅢ層	A3K	Ⅲ層	ナデ	ナデ	浅黄褐	浅黄褐	角閃石・長石・石英・赤色粒子			

## 石器

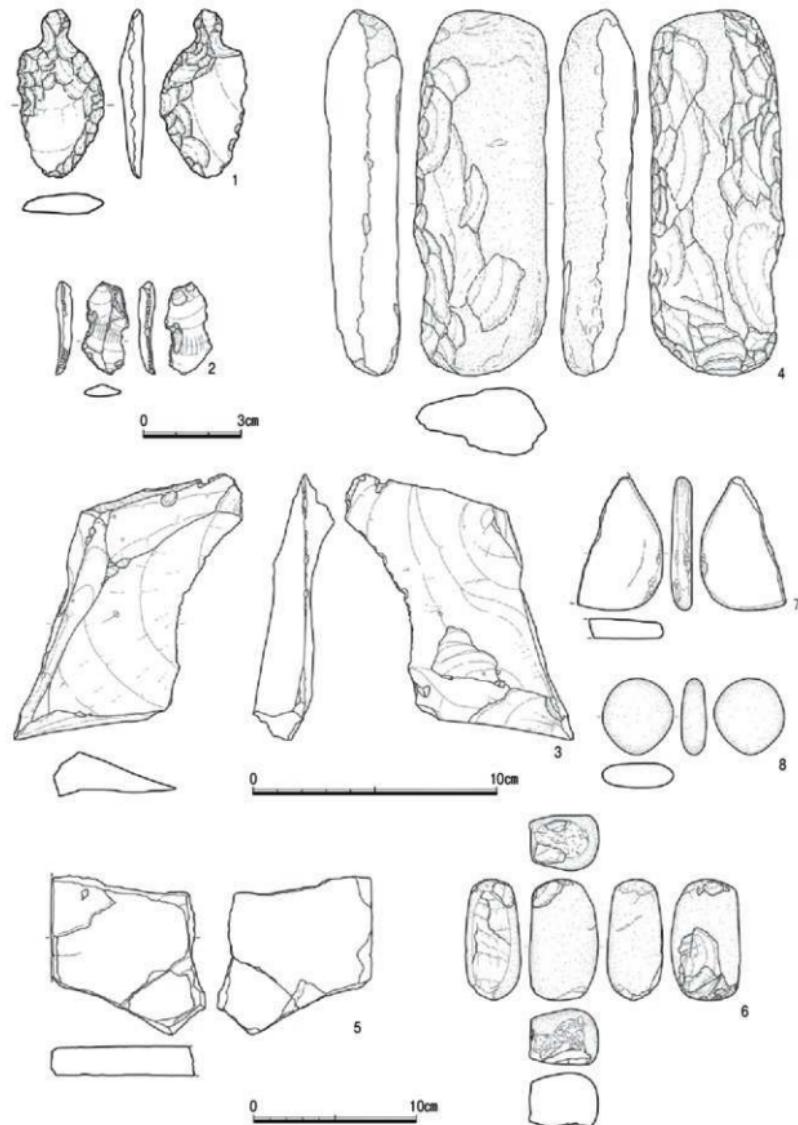
1は玄武岩製の縦型の小型石匙である。一方の側辺は弧状をなし、もう一方は直線的である。水磨の影響により全体的に強く摩耗する。

2は漆黒色黒曜石を素材とした縦長の剥片であり、左右両方の側辺に使用によるものと思われる微細な剝離が連続する。3はサスカイトを素材とする大型の剥片で、わずかに自然面を残す。湾入した側辺に刃こぼれ状の微細な剥離が認められるが、使用によるものかは判然としない。

4は細長い形状の蛇紋岩の水磨円礫を素材としている。整形のための粗い剥離作業を行うが、一部には自然面を残したものである。おそらく磨製石斧の未成品であろう。

5は片面に研ぎ面を有する砥石である。砂岩製であり、裏面は層理により剥落する。

6は安山岩製の敲石である。上下の端部に打撃作業による潰痕と剥離が認められる。右側部の欠損も作業によるものであろう。7は砂岩製の砥石で、表裏面及び側面に研ぎ面をもつ。また、側面には潰痕を有していることから、敲石としての使用も考えられる。8は頁岩製の磨石である。



第10図 出土石器 (1・2: S=2/3, 3・4: S=1/2, 5~8: S=1/3)

第3表 出土石器観察表

団	番号	器種	石材	注記	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
10	1	石砲	玄武岩	OSB02B1c 先行トレーン 黄褐色上層050607	黄褐色土層	5.1	2.6	0.7	8.6	摩耗著しい
	2	二次加工調片	黒曜石	OSB02B1c A2-A3セクション I層020710	I層	2.8	1.4	0.5	1.6	
	3	調片	サヌカイト	OSB02B1c II層030704	III層	10.9	9.4	3.2	124.8	
	4	磨製石斧未成品	船状岩	OSB02B1c A-SK先行Tr II層030706	表土	14.9	5.5	3.2	399.5	
	5	砥石	砂岩	OSB02B1c A2-A3セクション II層020711	II層	(9.6)	(9.5)	(1.8)	(250.0)	
	6	砥石	安山岩	OSB02A1区表層	表層	7.5	(4.3)	3.5	(177.6)	
	7	砥石・鏡石	砂岩	OSB02B1c III層020706	III層	(8.2)	(5.3)	(1.3)	(71.7)	
	8	磨石	頁岩	OSB02 A1-A2セクション 020702	—	4.7	4.4	1.5	46.7	

## 所見

出土した土器の時期は、縄文時代早期と縄文時代後・晚期に大別され、石器群についても大半がこれらの時期に所属するものと思われる。縄文時代早期の土器は、口縁部外面に横方向の貝殻条痕を施して胴部は無文の円筒形条痕文土器、いわゆる一野式土器の一群と、彫刻を施した棒状施文具によって施文を行なう回転押型文土器の一群がみられる。回転押型文土器の文様には、楕円文、山形文、格子目文、平行文がある。円筒形条痕文土器と回転押型文土器、これら二者の先後関係を示すような検出状況は、今回の調査では得られていない。縄文時代後・晚期の資料については、後期の磨消縄文系のものと貝殻条痕調整を施す晚期の礫石原式に該当するものとがみられ、突帯文期まで時期が下ると判断できるものは検出されていない。

平成12年度の本調査ではこれらのはかに縄文時代中期や中世の資料なども得られており、それらの成果も含めると、大崎鼻遺跡北東部域における時期的な展開の在り方については、概ねつかむことができたといえよう。

## 【参考文献】

- 土橋啓介編 2001 「大崎鼻遺跡」 布津町文化財調査報告書第1集 布津町教育委員会  
 本多和典編 2005 「下末宝遺跡・上畦津遺跡」 深江町文化財調査報告書第1集 深江町教育委員会

# 図 版



遺跡近景（南から）



A区完掘状況（東から）



B区完掘状況（南西から）

図版 2



作業状況



B区集石検出状況



B区遺物検出状況



A 1 区西壁土层



A 1 区南西壁土层



B 区南壁土层

図版 4



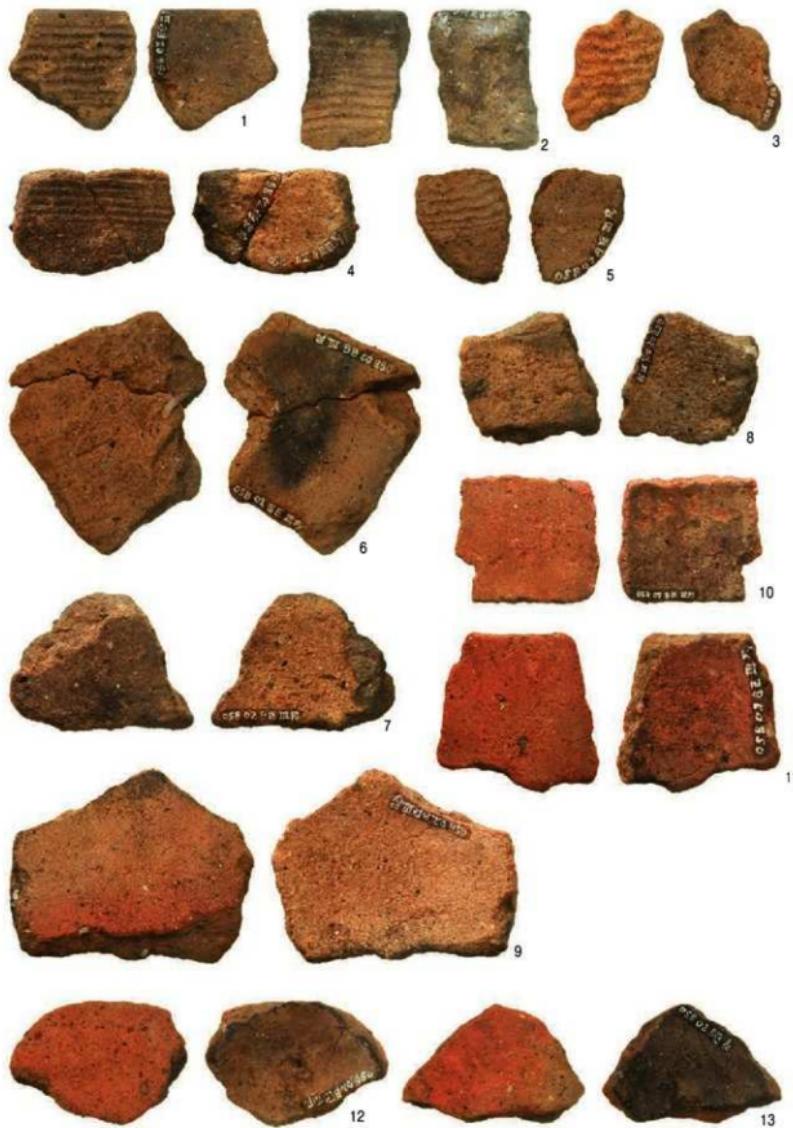
遺物出土状況①



遺物出土状況②



遺物出土状況③

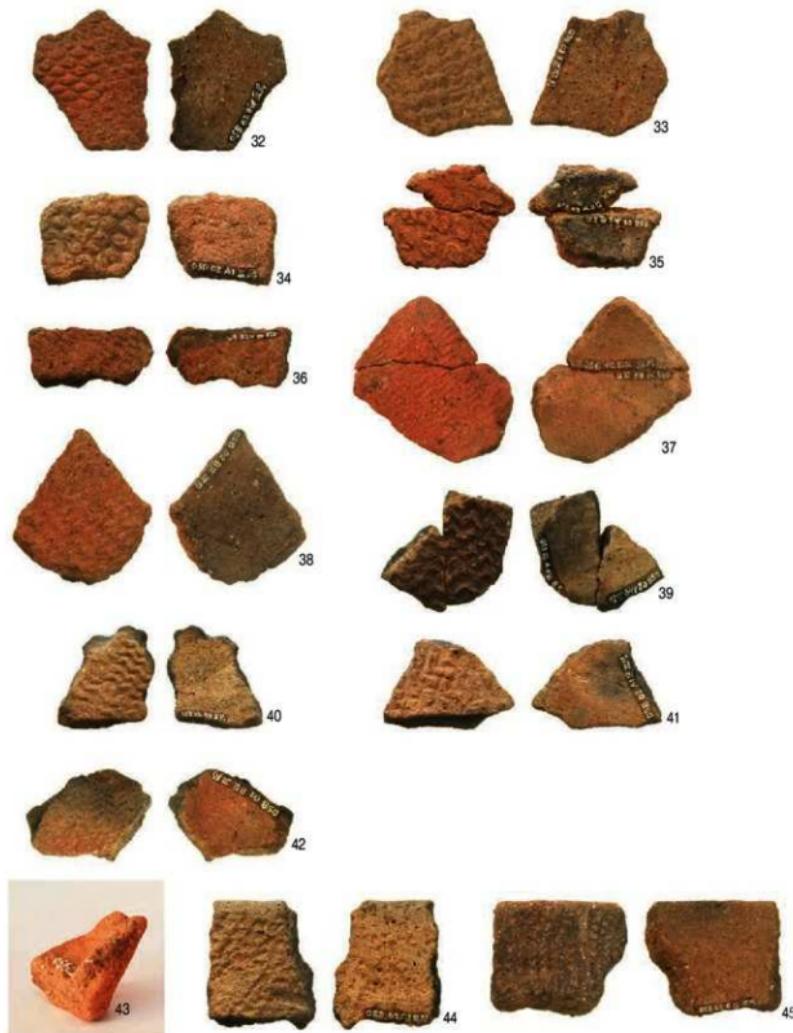


出土土器①

図版 6



出土土器②



出土土器③

図版 8



出土土器④



出土土器⑤

图版 10



出土石器

## 報告書抄録

ふりがな	おおさきばないせき							
書名	大崎鼻遺跡							
副書名	大崎鼻自然公園整備事業に伴う発掘調査							
卷次								
シリーズ名	南島原市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第29集							
編著者名	本多 和典							
編集機関	長崎県南島原市教育委員会							
所在地	〒859-2412 長崎県南島原市南有馬町乙1023番地 TEL 0957-73-6705							
発行年月日	西暦2022年3月31日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおさきばないせき 大崎鼻遺跡	南島原市 布津町	42214	120	32° 41' 40"	130° 21' 23"	20020603 ～ 20020731	400m <sup>2</sup>	公園整備
所取遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
大崎鼻遺跡	遺物包含地	縄文時代		集石		円筒形条痕文土器 押型文土器 粗製土器 精製土器 石匙 砥石 敲石		

南島原市文化財調査報告書 第29集

## 大崎鼻遺跡

2022.3.31

発行 長崎県南島原市教育委員会  
〒859-2412 長崎県南島原市南有馬町乙1023番地  
印刷 謙早印刷株式会社